

LiLiLiLi

Mitsui Advancement Center Newsletter

日野振興センターだより

令和5年3月発行 no.40



menu

- 日野川の源流と流域を守る会 設立20周年
- 日野川フオトコンテスト2022
- 日野郡におけるスマート農林業の取組
- 日野郡における令和4年産米の作柄 ～ 良食味への取組 ～
- 身近な男女共同参画事例 冥賀美佐子さん（一般土木施工管理技士）
農作業事故に注意！～ 家庭・地域でも声かけを～
- 河川・道路愛護ボランティア団体募集中!!
- 日野郡で輝く人 「高宮の郷」佐々木 良明さん
- 新型コロナウイルス感染症



日野川の源流と流域を守る会 設立20周年



日野川の源流と流域を守る会は、平成13年に開催された「日野川の源流を訪ねる旅」で「鳥取県西部の水を守るため、日野川の上流と下流が一体となって水源のある森や流域を守ろう」という参加者の声に後押しされ、平成14年4月22日に誕生しました。以降、長年にわたり日野川流域の豊かな自然環境を守り、次世代を担う子どもたちに美しい日野川を引継ぎ、日野川を日本一美しい川にするという理念で森林整備、河川環境保全、歴史や伝統文化の発掘・継承活動を行っており、令和4年に設立20周年を迎えました。

記念シンポジウム開催

令和4年12月3日(土)、米子コンベンションセンターにおいて、会の設立20周年を記念したシンポジウムを(株)中海テレビ放送との共催により開催し、多くの方に参加いただきました。

とつとつコンベンションビューロー理事 長石村隆男(いしむらたかお)氏による「日野川流域の風景が語りかけるもの」と題した講演では、母なる日野川によってもたらされた風景の持つ意味を語っていただきました。日野川流域は神話の時代からたたらを淵源とする独特な地形と流域文化が育まれ、その風景を読み解くことで、世界が広がり、ふるさとが魅力的に見えることが、石村氏のたくさんの写真から伝わってきました。そして、日野川流域の環境や文化を積極的に地域活性化に活かしていく「たたら文化圏」構想の提案には、多くの参加者が興味を持たれていたようでした。

パネルディスカッションでは、オシドリグループ事務局代表森田順子(もりたじゆんこ)氏のオシドリが運ぶ交流、鳥取環境大学の横田さんと友田さんの河川調査によって分かった日野川のゴミの状況、日野川の源流と流域を守る会幹事長達磨晋(たるとますむ)氏の日野川に由来する鳥の楽しみ方など、日野川に携わる方それぞれの思いを通じて、日野川の過去と未来に思いを寄せ、美しい日野川を守り継いでいく気持ちを再確認した一日となりました。



◀会場を彩った草月会鳥取県支部の皆さんの日野川をイメージした作品



達磨 晋氏



鳥取環境大学 横田さん(左) 友田さん(右)



森田 順子氏

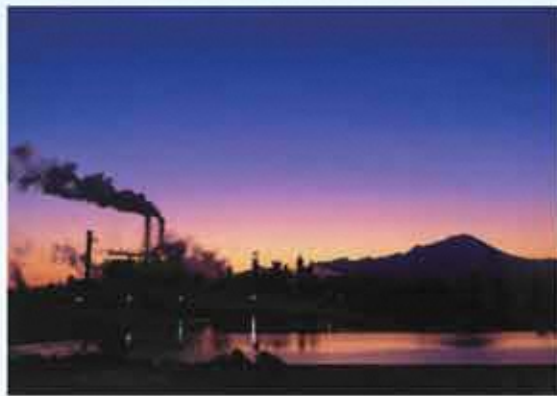


石村 隆男氏

日野川フォトコンテスト2022

日野川の源流と流域を守る会では、日野川の自然、山、森、里山の風景、流域の人々の生活などを題材にフォトコンテストを毎年開催しています。2022年もたくさんの方から応募いただきましたが、その中から選ばれた一般部門、スマホ部門それぞれの最優秀賞であるグランプリ作品を紹介します。

〈一般部門〉



「秋の暁」藤原 安里紗さん

【作品への思い】
生まれも育ちも米子ですが、カメラを趣味にしてからレンズを通して鳥取の豊かな自然を再認識し魅了されています。

〈スマホ部門〉



「風神雷神」五百川 和久さん

【作品への思い】
日野川堰管理橋から日野川上流に向かって撮影しました。雲の様子や姿が風神雷神図に似ていたためタイトルに使用しました。刻一刻と変化する雲の様子や姿に自然の素晴らしさを感じました。

石丸 なつ子審査員長の講評

どの作品も撮影した時の気持ちが反映され、日野愛が感じられました。特にスマホは、自分が思った時にすぐ撮れるので、気持ちが素直に出て、生き生きとした感じが伝わってきました。普段から自分の目がどのようにとらえているのか、見ているのが写真を通じて滲みでてきますので、皆様の作品が今後も楽しみです。

その他の入賞作品は、当会のホームページ
(<https://www.pref.tottori.lg.jp/308738.htm>)をご覧ください。



会員募集

「日野川を日本一美しい川にするため、日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか?」
当会の活動に興味をお持ちの方は、事務局までお問い合わせください。

日野川の源流と流域を守る会事務局
(日野振興局地域振興課内)
電話:0859-72-2081
FAX:0859-72-2072



大石見神社散策



日野川源流探訪



日吉津海岸外来植物除去作業

日野川流域憲章の制定
平成20年に日野川の源流と流域を守る会や国土交通省日野川河川事務所、鳥取県、米子市水道局を中心に日野川流域圏の産官学民33団体が協働・連携し、また、当会の呼びかけにより、河川環境の保全と流域文化の伝承を理念に地域活性化を目指す「日野川流域憲章」が制定されました。当会もこの流域憲章に基づき、ボランティアによる源流水源林の保全、参加団体との共催によるイベント開催など多彩な活動を展開してきました。

メインイベントの源流探訪、森林整備体験、日野川学校、海岸清掃と外来植物除去、オオサンショウウオなど希少動物を守る環境学習会、日野川フォトコンテストと展示会、写真撮影会などの取組みを通じて、日野川流域の素晴らしさと自然環境を守る大切さを発信しています。



日野川学校



オオサンショウウオを観察する子どもたち



森林整備体験



日野川源流の碑除幕式

日本水大賞等の受賞
平成23年に日野川流域の水資源保全・河川文化伝承活動と日野川流域憲章制定の取組みが評価され「日本水大賞厚生労働大臣賞を受賞することができました。その記念として、地元道後山の御影石を使った「日野川源流の碑」を建立し、会の活動に尽力された方々とともに除幕式を行いました。今でも源流探訪で毎年訪れる活動の原点となる大切な場所となっています。また、これまで20年間の国土緑化運動の取組みは、令和4年の「中国・四国地区緑化功労者表彰」の受賞につながりました。

【タイトル】深谷を走る特急やくも 【撮影者】日野町 松本 利秋
【撮影者コメント】 JR伯備線走る特急やくも、トンネルを抜けると鉄橋です。ここは奥日野県立自然公園の一角、石籠溪(せっかけい)。生山駅から徒歩15分。大深谷、奇岩や怪岩が目を引き、春は桜、初夏はつつじ、秋は紅葉と四季折々の自然風景があふれています。生山駅は今年、開業100周年。電車に乗って伯備線沿線の美しい景色を楽しみたいものです。

〈 農業分野 〉

最先端技術を活用する“スマート農業”は主に水稲分野で活用が進んでおり、全国で技術の実証や導入が加速しています。近年、日野郡でも水稲栽培や畦畔管理において導入が進んでおり、導入を検討される農業者も増えています。

管内では農業法人や大規模経営体を中心に“ラジコン式自走草刈機による草刈り”や“ドローンによる薬剤散布”などのスマート農業技術が実際に導入されています。実際に導入した農業者から『作業が身体的に楽になった』『導入前よりも作業時間が短くなった』と良好な評価を得ています。また、スマートフォンやタブレットなどで、ほ場位置や作業履歴などを入力することで、農地の見える化が可能な“ほ場管理システム”の他、経験が浅いオペレーターでもまっすぐ田植が出来る“直進アシスト機能付き田植機”なども活用されており、営農の効率化とあわせて経験や技術の不足を補完するようなシステムや機械の導入にも取り組まれています。

スマート農業導入を検討される場合は、機械の能力、使用するほ場の条件や導入コストを比較検討し、必要なものを上手に活用することが大切です。



写真1:ドローンによる農業散布
搭載する散布装置を交換することで、粒剤・液剤両方の農業について空中散布が可能です。



写真2:ラジコン式自走草刈機
ラジコンを用いて遠隔操作を行う草刈機。作業者は傾斜地に立つことなく、安全な場所からの操作が可能です。

問日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

日野郡におけるスマート農林業の取組

皆さんは、“スマート林業”や“スマート農業”という言葉を知っていますか？
これらは、最新の測量技術や、機械の遠隔操作技術等を活用して、作業時間短縮、労働負荷軽減、安全性の向上等を図るものです。これらの最新技術の普及の背景には、農林業が抱える高齢化や担い手不足といった課題が挙げられます。
今回は、日野郡における林業と農業分野における取組事例をいくつかご紹介します。

〈 林業分野 〉

近年、様々な技術開発が進む“スマート林業”において、日野郡では、最新の測量技術である「レーザー航測」のデータ活用が進んでいます。これは主に、私有林や県有林から木を伐り出す時に作る伐採計画や作業道計画に必要な現地調査の省力化を図るもので、森林組合や当センターでもすでに活用されています。森林組合職員からは、『現地調査が減り楽になった』『熟練の技術者でなくても計画が立てられた』などの声があり、たいへん好評です。

※飛行機から地上へレーザー光を照射し、詳細な地形や樹木の形や大きさ等を計測する測量技術。レーザー航測データをもとに、樹木や地形を立体的に表示でき、室内で現場状況を把握できる。

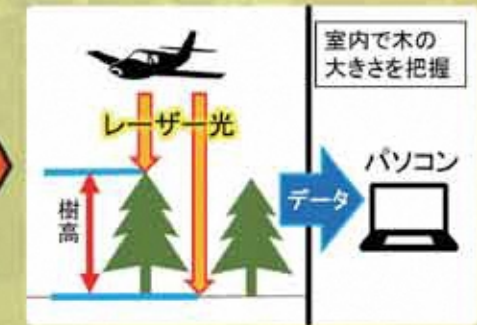
〔 従 来 〕

〔 スマート林業 〕

① 伐採計画:木の大きさや本数の把握が必要



多大な時間と労力がかかるため、調査範囲は限られ、広範囲を正確に把握できない



労力をかけず短時間で広範囲をパソコン上で正確に把握

② 作業道計画:木材運搬用に安全な地形にルート計画が必要



現地でルート検討するため、熟練の経験や時間・労力が必要



地形に応じた最適ルートをパソコンが自動検討するため、経験が少ない者でもルート計画が可能

他にも、ドローンによる苗木運搬や遠隔操作下刈り機等、これらスマート林業の活用が検討されています。

日野郡における令和4年産米の作柄 ～ 良食味への取組 ～

令和4年10月に開催された「第20回日野川源流米コンテスト」(主催:日野郡産米改良協会、出品数165点)では、出品された米の食味値^{※1}の平均が81.6点で前年を約6ポイント下回り、整粒歩合^{※2}も88.5%で前年を約2ポイント下回ったものの、いずれも高い水準でした。

令和4年度は、8月中旬の日照不足や9月の台風に加え、フェーン現象によって出穂後に高温となる日が多かったため、日野郡の主要品種であるコシヒカリは、標高300m以下の地域で2等に等級落ちする事例が多く見られました。しかし、標高が高い地域では、昼夜の温度差が大きく玄米の充実が良好であったことから、品質が高い傾向となりました。

冒頭のコンテストの最優秀賞(知事賞)は、日南町の(株)米風土鳥取(まいふうとっとり)が2年連続で受賞され、同社は、静岡県で開催された「第19回お米日本一コンテストinしずおか」(令和4年11月、主催:静岡県他、出品数:578点)でも最高金賞を受賞されました。

(株)米風土鳥取の藤原取締役は、「今後もコンテストに積極的に出品し、全国でも更に上位入賞を狙えるような良食味米の栽培に継続して取り組みたいです」と意気込んでいます。

日野郡では、良食味米の生産を目指して、意欲的な取組を行う農業者や組織も多く、今後も一層の日野郡産米のレベルアップが期待されます。



令和4年12月15日 日野川源流米コンテスト授賞式

※1食味値:お米のおいしさを示す値。専用の測定器(サタケ製)で計測する。標準的なお米は65~75点。
※2整粒歩合:被害(着色や未熟)等のない整粒の割合。穀粒判別機で測定する。一般的には、70%以上で1等米とされている。

問日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

問日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2125

河川・道路愛護ボランティア団体募集中!!

～鳥取県が管理する「地元の道路、河川、公園」の除草等をしてくださる皆さまの活動を支援します～



<ボランティア活動内容>

- 道路の清掃、除草又は植栽管理もしくは歩道除雪
- 河川の清掃、除草又は植栽管理
- 公園の整地、清掃、除草又は植栽管理



区分	参画型ボランティア 促進事業	協働型ボランティア 促進事業	スーパーボランティア 支援事業
交付金等	参加者:100円/人・時間 草刈機等:100円/台・時間 (上限10万円/年)	河川・道路・公園等:40円/㎡ 植栽機:500円/㎡ 歩道除雪:20円/㎡ (上限40万円/年 ただし、歩道除雪は20万円/年)	河川・道路・公園等:40円/㎡ 植栽機:500円/㎡ (上限60万円/年)

輝け!!日野郡のボランティア団体

～九塚川河川公園を憩いの場所へ～



団体名:九塚川河川公園管理運営委員会
代表者名:小竹 等
活動場所:日南町神福 九塚川河川公園
活動開始:平成9年度(1997年)
支援事業費(スーパー型):60万円

【活動内容】
・公園の維持活動(草刈等)
・伝統芸能保存会の開催
・地域団体への施設利用促進
(グラウンド・ゴルフ同好会への利用促進)

九塚川河川公園管理運営委員会 代表者 小竹さんへ取材に行ってきました!!

Q.ボランティア事業を始めた動機を教えてください。

A.私はこの地域をもっと活性化させて、「人が集まるような場所を作りたい。」という思いを強くもっています。この思いに賛同している地域の人と話し合いを重ね町や県に要望をしていたところ、思いが実を結び、九塚川河川公園は町と県の協力により整備されました。その後、河川公園を維持するために県からこの支援事業を紹介され、現在、スーパーボランティア支援事業により公園の維持管理、伝統芸能保存会による地域の子供たちとの交流に活用させてもらっています。



Q.九塚川河川公園のアピールポイントを教えてください。

A.一番の魅力としては、子供たちが自然と思いっきり遊べる環境が整っているところです。夏になれば子供たちが芝の上を裸足で走ったり、川辺で水遊びをしたり等福栄の雄大な自然を体で目一杯楽しむことが出来ます。また、グラウンド・ゴルフ場やバーベキュー場など地域の人が集まって交流することが出来る環境づくりにも力を入れています。将来的には、ログハウスの建設やテントを張れる場所を設けて、夜も楽しんでいただける場所を提供していきたいと考えています。

Q.ボランティア事業を続ける理由を教えてください。

A.作っていただいた公園という理由もありますが、私はもう一つ強い思いを持っています。それは日南町福栄住人の憩いの場所として、この公園を中心に人々が集まってくれる場所にしたいとの思いがあり、子供たちがふるさととして、将来この福栄に帰ってきたときのためにこの場所を地域のみなさんと守っていきたくて考えています。これからもこの支援事業を活用して、維持可能な地域の中心としてこの河川公園が活用されるようにしていきたいと思っています。

日野県土整備局 維持管理課 電話:0859-72-2046 FAX:0859-72-2092

<身近な男女共同参画事例>

必要な仕事を担うのに男女は関係ない。すべき仕事に取り組むのみ
有限会社原明建設 総務課長 冥賀美佐子さん(一級土木施工管理技士)



冥賀さん(いい笑顔)

2022年10月、女性を取り巻く課題の解決や男女共同参画社会のよりよい実現をめざす「日本女性会議」が初めて鳥取県で開催されました。これによせて、男性が多い建設業界で活躍する日野郡の女性の事例から男女共同参画社会のあり方を考えてみましょう。

出身地の日野町で転職先を探していた冥賀さんは、前職で建設業にかかわったこともあり、有限会社原明建設(日野町下菅)の求人に応募し、採用されました。

おもに事務担当ですが、現場代理人も務める日々の中、土木の資格がないことを関係者から指摘されたのを機に、資格取得にむけて猛勉強。受験に必要な実務経験も積み、一級土木施工管理技士に合格されました(ご本人曰く、「でも、土木の仕事は一人ではできないから、資格だけで仕事はできません」とのこと)。会社も勉強時間の確保や受験費用の負担などの応援をしてくださったそうです。

大好きな地元で、しかも興味のある建設業界で働けるから入社した。入ったら事務だけでなく現場での仕事も求められたので、必要なスキルを身につけた。現場への配置は断らないけれど、困ったら抱え込まず、上司に相談して解決する。社員を大切にしてくれる居心地のよい職場で、女性が不利だと感じたことはないですね…と話す冥賀さんは本当に「自然体」です。

男女共同参画社会の推進とは、特定の性別にだけ過剰な役割を求めるのではなく、誰もがその人らしく、職場でもプライベートでも活躍できる社会の実現に向けて、不要な性別の区分けや偏見をなくしようというものです。

性別を問わず職場の仲間と「期待」し、コミュニケーションを取って、その人の事情や生き方によりそい、その人らしい性格のまま能力を発揮できる雰囲気づくりは、そんな社会のキホンなのだ、と冥賀さんのお話から感じさせられました。

私たちのまわりでも、つい「男性は…女性は…」と、性別を分けて考えていたら、立ち止まって考え直してみたいですね。そういう思い込みで、その人の本当の能力を見逃していたらもったいないですから。



社を代表して安全協議会に出席(右奥)

日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

農作業事故に注意! ～家庭・地域でも声かけを～

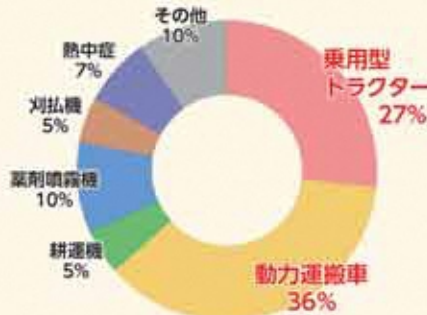
鳥取県では令和4年度に10件の農作業事故(うち2件の死亡事故)が発生しています(令和4年11月末までに県に報告のあった件数)。

過去10年に県内で発生した農作業死亡事故の傾向をみると、動力運搬車によるひかれ事故や乗用トラクターでの横転事故などが多く、年代別では全体の約8割が70代以上による事故となっています。

また、農作業中の熱中症も4月から発生する場合もあり、農繁期に向けて注意が必要です。

農作業事故は単なる機械の操作ミスに限らず、危険な場所での作業や機械施設の整備不良、不適切な作業方法など複数の要因により発生しており、適切な安全対策や事前準備を行うことで、事故の未然防止と重傷化リスクの低減に繋げることができます。

まずは、作業現場や周辺道路の見回りや機械施設の点検を実施して、安全な農作業実施について再確認することから始め、家庭や地域などでも声をかけあって、みんなで農作業事故を防ぎましょう!



■乗用型トラクターの主な事故と安全対策

ほ場を出入りする際の傾斜や狭い進入路、ほ場の端から法面等への転落・横転。
(安全対策)安全キャブ・フレームとシートベルト着用の徹底
進入路等の危険箇所の確認と幅・勾配の改良等
作業終了後は、ほ場を出る前にブレーキを連結

■動力運搬車の主な事故と安全対策

走行レバーを逆に入れて発進させてひかれる。後退時など、後方にある壁や物と機械との間に挟まれる。
(安全対策)発進前に走行レバーの進行方向を必ず確認
後退時には後方や足下の状況を確認
エンジン始動時の操作レバーは中立に

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

農林業振興課農業振興室 電話:0859-72-2003 FAX:0859-72-2011

小さな拠点『高宮の郷』佐々木 良明さん(日野町集落支援員)

ここはJR伯備線の上管駅、ちょっと一服したいけど、缶コーヒーじゃ味気ない…そんな時は駅の真ん前にある『高宮の郷』のムラづくりカフェ『住舞瑠(すまいる)』にぜひどうぞ。

管福地区にある小さな拠点『高宮の郷』の佐々木良明さんは、長らく東京、大阪で働いた後、故郷の日野町に戻ってこられました。ぜひ地域の役に立つ仕事をしたいと思い、令和4年4月に集落支援員となられ、活動を支援しておられます。 ※小さな拠点…地域のいくつかの集落を結び、生活サービスや地域活動をつなぐ拠点



▲カフェで飲談する地域のみなさん

活動の第一歩として開かれたこのムラづくりカフェは、多い日で20人ほどの人が来られ、中には毎日顔を出す人、1時間以上おしゃべりして帰られる人もあるそうです。みなさん、居心地がいいんでしょうね。

カフェの運営以外にも活気ある地域にするための活動をされており、10月には『小さな花火大会』も復活されました(打ち上げ花火ですよ!)。3連休の初日となったその日は帰省してきた人も多く、「久しぶりに子どもが走り回る光景が見られた」と笑顔で語られます。

管福地区には、カフェの常連さんをはじめとして、地域で何かをしようと呼応して協力して下さる方が多く、花火大会の屋台も地域の方が担当されたそうです。ほかの行事の時も大勢に告知していないのに地域の方のクチコミで広がり、当日は予想をはるかに超える人数が来てくれたとのこと。

「日野町の人口を増やすには、職さえあればよいのではなく、人とつながれる店やイベントなど暮らしの中の楽しみもほしいです。そこで、私は『あれもある、これもある管福』をめざしたい。地域活動に協力的な方が多いですから、私もみなさんが楽しめる企画をすれば、もっと活動が膨らんでいくポテンシャルを感じます」と、今後の展望を語る佐々木さんの表情は明るいです。

問日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



▲こんなお店です♪

現在、新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株の亜系統が主流になっています。

鳥取大学医学部ウイルス学分野 景山誠二教授にこの変異株について教えていただきました。

● 流行している株の状況について教えてください。

現在、陽性者が感染しているのは、ほとんどオミクロン株です。オミクロン株の中にいくつかの亜系統があり、亜系統間での組換え体も出てきています。昨年10月以降、それまで多かったBA.5系統から、BQ.1系統(BA.5.3系統の亜系統)及びBA.2.75系統の占める割合が上昇しました。

特徴としては、発熱や倦怠感、のどの痛み、頭痛などこれまでと同様の症状が見られます。感染力が従来株より強い半面、重症化する割合は低いようですが、甘く見てはいけません。

また、北米では急速に新たなオミクロン株亜系統のXBB系統への置き換えが進んだことや各国の政策の緩和等により海外旅行者が増加することで、新たな株が国内でも流行し始める可能性があります。

● 変異株に対するワクチンの効果はいかがでしょうか。

オミクロン株対応ワクチン(2価ワクチン)の発症予防効果は71%と、非常に高い効果が期待され、新たな変異株のXBB系統の重症化予防も見込まれますので、引き続きワクチン接種をお勧めします。

● 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられるようですが、気をつける点などがありますか。

国において、5月8日から、これまでの2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げると決定されました。医療体制や医療費、ワクチン接種等の扱いについては、国やお住まいの自治体から今後の公表内容を確認してください。

一方で、感染症法上の分類は変わっても、WHO(世界保健機構)は緊急事態の維持を決定するなど、ウイルスがなくなるわけではありませので、状況に応じた基本的感染対策には引き続きご留意ください。

鳥取大学医学部
景山教授

問日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

【日野振興センターだよりアンケートにご協力いただいた皆様へ】

多くの皆様にご回答をいただき、誠にありがとうございました。文字の大きさや内容など、いただいたご意見を次号以降の制作の参考とさせていただきます。

なお、前号の伯備線特集記事で利用者の思い出としてご紹介した写真説明(P.7中段)中で、「根雨高校までの最後の駅(江尾駅)の記載が事実と異なるのでは」とのご指摘をいただきました。これは、お話を伺った方が利用されていた当時は武庫駅開設前であったため、説明が不十分でした。ほかにも内容についてのご意見をいただいております、わかりやすく適切な記載を心がけてまいります。

今後も当センターの視点で話題提供をさせていただき、より多くの皆様に喜んでもらえる誌面づくりに努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。